「2011年度春学期授業を振り返る」
～授業参観の結果を参考に～

実施報告

日時: 2011年11月14日(月)　12:00 ～ 12:30

場所: 東海大学湘南キャンパス
8号館3階プロジェクト会議室

司会: 崔　一英(チャレンジセンター教授)

内容: １. 参観対象授業:「集い力Ⅰ(入門)(第10回)」
教員名:園田由紀子先生
実施日時:2011年6月22日(水)３限
山口　勉教授(チャレンジセンター)
２. 参観対象授業:「ジャーナリズム・ゼミナール」
教員名:山口　勉教授(工学部原子力工学科　大江俊昭主任教授)
実施日時:2011年6月16日(木)５限
岡田　工准教授(チャレンジセンター)

参観対象授業:「集い力Ⅰ(入門)(第10回)」　教員名:園田由紀子先生

山口　勉教授(チャレンジセンター)

授業では「密室不審死」のシミュレーションに基づき、各自がインタビューリサーチを行っていた。受講者130人という多数にもかかわらず、それぞれが積極的に「関係者役」にインタビューしている姿が印象的だった。参観者自身が担当する「ジャーナリズム演習」授業でも、時折外部から人を招き、インタビュー及びその内容を文章にまとめているが、それに通じる授業として参考になる点があった。

この授業のねらいは、現在の学生に不足している①コミュニケーション能力②関係開始スキル③合意形成④自己開示（自分の意見を言う）――などの養成で、チームに分かれて芝居のようなものをしながら合意形成してゆく。

授業では、きちんとした他者との会話、質問のやり方などを「振り返り」を通じて仔細に点検、指導を行っており、その手間のかけ方には頭が下がり、参考になったが、この手法としては、130人という履修者数は多すぎる印象を受けた。

園田先生から、チーム構成の方法、授業内容の補足があった。
Q: 受講者が多いが、何チームで行うのか、1チームの構成人数は？
A: 多い時は18チーム、1チーム7～8名で行っている。発表は2回に分けて行う。

参観対象授業:「ジャーナリズム・ゼミナール」　教員名:山口　勉教授

岡田　工准教授(チャレンジセンター)

この授業は、学内の様々な場所に取材に行き、学生がジャーナリストとして記事をまとめるという授業である。東日本大震災では、福島第一原子力発電所の事故が注目されている。今回は、東海大学工学部原子力工学科　大江俊昭主任教授に福島第一発電所の事故の状況や放射能の影響、特に事故による放射線、放射能や、その摂取制限値について説明を受けた。

学生からの活発な質問が続き、実践的な授業であることが分かった。東日本大震災を身近に感じ、本当に放射能漏れは大丈夫なのかといった不安が多かったようであるが、放射線量の測定結果から安心したようである。工学部の教員による講義は、文系を中心としたジャーナリズムの学生にとって難しそうであったが、まじめに取材していた。

東日本大震災後、原子力について注目度が高い。特に放射能漏れ事故に関しては、健康被害や今後の汚染問題等疑問が多かった。大江先生は事故の状況、放射能漏れの状況、そして現状を説明。　また、実際に測定機器を使っての放射線の測定や、研究室にある実物の資料を見ながらの解説など、非常にわかりやすい講義だったジャーナリズム・ゼミナールは2回目の参観だが、毎回、旬な話題を取材先に選び、学生とともに取材をしている。分野も幅広く、注目度が高い内容であるため学生の関心も非常に高いし、楽しくためになる授業であるとの印象だった。

Q: 取材後、学生は報告書を書くのですか？放射線の単位について理解できていましたか？受講者数は何人ですか？
A: レポートを書き、発表させる。単位については、詳しい説明を聞いた。受講者は約20名。
現場で現実的な取材をすることが、教育的に望ましい。